

心に刻んだ和歌山

趙 応夢
教育学部 交換留学生 中国

私は和歌山へ行く前に、先輩に和歌山のことを聞いたことがある。先輩は「東京、大阪よりそんなに賑やかな所ではないけど、自分の特色が鮮明で、一生に忘れられない町だ」と答えた。それから、私は憧れを持ち、和歌山に来た。

和歌山に来たばかりの時、私は和歌山道路の綺麗さと静かさに驚いた。特に、道路の両側の緑化は環境を美化しているのみならず、騒音を減らすこともできるという点である。それから、会館と学校の距離が遠いので、親切なボランティア団体の方々は私たち留学生に自転車を配ってくれた。自転車に乗ったり、周りの風景を鑑賞したり、爽やかな風を感じたりするのは一番のリラックスである。

そして、和歌山に来たあと、私にとって最も印象的なことが二つある。

一つは私が困ったとき、和歌山の人々が私を助けてくれたことである。自転車の初心者の私は、学校へ行く途中で、事故にあった。私は陸橋にぶつかり、自転車は壊れ、自分も傷ついた。それに私と友達は電話が通じず、先生と連絡もできない。私がは絶望感で全く分からなくなっていた時、あるお婆さんとお爺さんが私たちを見て、手伝ってくれた。お婆さんは私の怪我を手当てしてくれ、お爺さんは私の自転車を自転車修理店に送ってくれた。それから、お婆さんは私たちにお茶をご馳走してくれた。お婆さんと私たちはお茶を飲んで、話をした。お婆さんは中国へ行ったことがあるといい、お別れのときは中国語で「さようなら」といった。私は感謝の気持ちを込めて、心から「ありがとう」と言った。実は、お婆さんとおじいさんのみならず、親切な先生とボランティア団体の方々、先輩と友達、和歌山の皆は私に様々のことを教えてくれ、困った時私を助け合ってくれた。私の留学の時間はたった半年とはいえ、和歌山皆の思いと私への配慮は一生忘れられない。

もう一つは和歌祭である。和歌山に留学しているのだから、和歌祭を体験しない理由はない。私は面被のメイクが面白いと思うので、面被に参加したいと思った。祭りの当日、本来静かな道は賑やかになった。東照宮には人々が集まり、皆は祭りに興奮し、念入りに用意した服を着、面白い道具を持った。何百年の和歌祭が世代代に伝わり、歴史の深さと文化的な厚さを持ち、私たちの前に現れた。自分は非常に幸運で、その素晴らしい祭りを参加したことができた。あの日、日当たりが強くても、人の意欲はまだ減らなかった。和歌山の皆は祭りのために、老若男女は自分の力を出し、皆の力を合わせた。私も皆の熱情に影響され、全身全霊に祭りに入り込んだ。



その二つのことは私に和歌山の人々の親切さと和歌山の独特の文化を感じさせた。私は日本語がまだ下手なので、生活や、勉強や、様々なところで迷っている時、和歌山の皆が私を助けてくれたことに心から感謝したい。それに、外国人の私は和歌山地元で、代表的な祭りを体験したことを、一生忘れられない。私はそのような素晴らしい人々はそのよう

な魅力的な文化を創造することができるかもしれないのだと思う。だからこそ、和歌山は私の心に深く刻まれたのだ。

私はあと二ヶ月で国に帰らなければならない。未来のことは誰にもわからない。だからこそ、私は和歌山での残された時間、和歌山の人々、和歌山の全てを大切にしようと決めた。